

総題 「イザヤ—わが民を慰めよ」

第5課 いと高き平和の君

小濱守宏

1. 安息日午後

今週のテーマは、平和です。

暗唱聖句にイエス様は、「平和の君」であり、私たちに平和を与える「驚くべき指導者」として働かれています。

世界の歴史を調べてみると戦争と争いばかりです。原子爆弾を作った有名な科学者のオッペンハイマーや爆弾の元であるダイナマイトを発明したアルフレット・ノーベルは、自分たちが発明し作ったものが戦争に使われて、※1大勢の人が死んで行ったのを見て、平和のために大切であるかに気づきました。

そしてノーベルは、平和な世界となるようにノーベル平和賞という仕組みを作りました。しかし、戦争や争いは、今も続いています。戦争と争いを止める事のできるイエス様について調べてみたいと思います。

※1大勢：たくさん

2. 日曜日：ガリラヤの辱めがおわる（イザヤ9：1～5）

ダビデ王やソロモン王までは、イスラエルは一つの国でしたが、ソロモン王の子供であるレハブアムの時代に王國が北イスラエルと南ユダに分かれて戦争をしていました。北イスラエルと隣の国ダマスコは※2同盟を作って、アハブ王が治めている南ユダに戦争を※3仕掛けました。驚いたアハブ王は、アッシリア帝国に助けを求めました。アッシリアは、北イスラエルの※2同盟軍に勝ちました。そして、アッシリア帝国は、ガリラヤ地方を占領して多くの苦しみを人々に与えました。

イザヤは、北イスラエルとダマスコの※2同盟軍を恐れるなどアハブ王に言いましたが、アハブ王は信用しませんでした。

その結果、北イスラエルのガリラヤ地域がアッシリアによって占領されましたが、約730年後イエス様がガリラヤ地方で苦しんでいる人々を助け解放しました。これは、イザヤの※4預言がイエス様を通して※5成就した事を聖書は、教えてくれる出来事でした。

聖書は、イエス様が平和を与えるために来られた事を教えてくれています。

※2同盟：同じ目的のために同じ行動をするように約束して出来た団体

※3仕掛けました：始めました

よげん かみさま あず ことば  
※4 預言：神様から預かった言葉

じょうじゅ よげん とお  
※5 成就した：イザヤの預言の通りになった

さん げつようび う きゅう ご ろく  
3. 月曜日：ひとりのみどりごが生まれた (イザヤ 9 : 5、6)

「ひとりのみどりご」とはイエス様を指しています。イエス様は、驚くべき指導者、力ある神、永遠の創造主、そして、平和の君です。そのようなイエス様を妬んでサタンは、世の中を※6 混乱と嘘の世界に導きますが、永遠の平和を作り出すイエス様は、決して負けません。

わたし うそ さま しん つづ  
私たちは、サタンの嘘を※7 あばくためにおいでになったイエス様を信じ続けます。

こんらん  
※6 混乱：メチャクチャにする

み  
※7 あばく：はっきりと見せる

よん かようび かみ いきどお つえ きゅう なな じゅう さんじゅうよん  
4. 火曜日：神の 憤りの杖 (イザヤ 9 : 7~10 : 3 4)

かみさま わたし さいこう ほうほう つか てんごく みちび  
神様は、私たちが最高のタイミングと方法を使って天国に導いてくださいます。

しかし、人間は、自分の都合のいいように生活したいのです。神様が示す生き方が自分にあっていないと感じると従いたくないのです。そんな時も神様は、私たちが幸せに生活できるように※8 預言者を通して、アドニスを与えます。そして、私たちの返事を待ってください。

ひとが自分勝手な歩みをする時、かみさま けっか ようす み とき かみさま こんらん みずか まね  
人が自分勝手な歩みをする時、神様は、その結果がでるまで様子を見る時があります。神様は、人間が自ら招いた苦しみという杖を使って人の罪を悟らせ、立ち返るようにお導きになります。

よげんしゃ かみさま ことば あず もの  
※8 預言者：神様から言葉を預かった者

ご すいようび ね えだ ひと じゅういつしやう  
5. 水曜日：根と枝は一つ (イザヤ 1 1 章)

かみさま むすこ しそん すく ぬし う い ね  
神様は、エッセサイの息子であるダビデの子孫から救い主がお生まれになると言われました。エッセサイの根とは、切り株が段々と腐って無くなっていくようにダビデの子孫が段々と力を失って滅んでしまうように見えても、そこから若枝のように救い主が与えられる事を分りやすく説明されました。(イザヤ書 1 1 : 1)

ちち まご かみさま むかし へいわ あた けいかく こと ひとびと  
ダビデの父エッセサイは、ルツの孫です。神様は、ずいぶん昔から平和を与える計画をもっていた事を人々に伝えたかったのです。

ひとびと あんしん きやうだい かみさま ちから ほろ いろいろ ばしょ す  
また、人々が安心するために強大なアッシリアも神様の力によって滅ぼされ、そして、色々な場所に住んでいる神様の民が集められ平和に暮らす事ができる事を伝えました。

じゅういつしやう すく ぬし う しりん たみ よ あつ さいりん ふた きぼう あた  
この 1 1 章は、救い主がお生まれになる (初臨) と、民が呼び集められる (再臨) の二つの希望を与えてくれます。

ろく もくようび なぐさ じゅうに いち ろく  
6. 木曜日：わたしを慰められた (イザヤ 1 2 : 1~6)

じゅうにしょう かみさま やさ かん とき わたし かんしゃ おも つた よ てほん かしよ  
1 2 章は、神様の優しさを感じる時に、私たちが感謝の思いを伝える良いお手本となる箇所です。

イエスという名前<sup>なまえ</sup>は、「主<sup>しゅ</sup>は、救<sup>すく</sup>い」という意味<sup>いみ</sup>があります。イエス様<sup>さま</sup>は、平和<sup>へいわ</sup>を作り出<sup>つく</sup>しますが、イエス様<sup>さま</sup>を知<sup>し</sup>れば知るほど、辛い環<sup>つら</sup>境<sup>かんきょう</sup>や苦し<sup>くる</sup>い問題<sup>もんだい</sup>の中<sup>なか</sup>でも、私<sup>わたし</sup>たちの心<sup>こころ</sup>は、平和<sup>へいわ</sup>な思<sup>おも</sup>いこみたされます。なぜなら、私<sup>わたし</sup>たちは、イエス様<sup>さま</sup>の十字架<sup>じゅうじか</sup>によって既<sup>すで</sup>に救<sup>すく</sup>われているので慰<sup>なぐさ</sup>められるのです。

## 7. まとめ

今週<sup>こんしゅう</sup>の学<sup>まな</sup>びは、平和<sup>へいわ</sup>を与<sup>あた</sup>えてくださるイエス様<sup>さま</sup>について学<sup>まな</sup>びました。木曜日<sup>もくようび</sup>に学<sup>まな</sup>んだコリント第2<sup>だいに</sup>の手紙<sup>てがみ</sup>5章<sup>しょう</sup>にじゅういっせつ<sup>にじゅういっせつ</sup> 21<sup>にじゅういっせつ</sup> 節<sup>せつ</sup> (新改訳<sup>しんかいやく</sup>) を見<sup>み</sup>てみますと「神<sup>かみ</sup>は、罪<sup>つみ</sup>を知ら<sup>し</sup>ない方<sup>かた</sup>を、私<sup>わたし</sup>たちの代<sup>か</sup>わりに罪<sup>つみ</sup>とされまし<sup>わたし</sup>た。それは、私<sup>わたし</sup>たちが、この方<sup>かた</sup>にあつて、神<sup>かみ</sup>の義<sup>ぎ</sup>とな<sup>か</sup>るためです。」と書<sup>か</sup>いてあります。将来<sup>しょうらい</sup>、私<sup>わたし</sup>たちに与<sup>あた</sup>えられる平和<sup>へいわ</sup> (再臨<sup>さいりん</sup>) や現在<sup>げんざい</sup>与<sup>あた</sup>えられている心<sup>こころ</sup>の平和<sup>へいわ</sup>も、父<sup>ちち</sup>なる神<sup>かみ</sup>さま、又<sup>また</sup>、私<sup>わたし</sup>たちの身代<sup>みがわり</sup>わりとな<sup>か</sup>られたイエス様<sup>さま</sup>の深<sup>ふか</sup>い愛<sup>あい</sup>が土台<sup>どだい</sup>なのです。深<sup>ふか</sup>い大<sup>おお</sup>きな愛<sup>あい</sup>を学<sup>まな</sup>んだ私<sup>わたし</sup>たちは、毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>の生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>で嫌<sup>いや</sup>な事<sup>こと</sup>、つらい事<sup>こと</sup>が起<sup>お</sup>こつても乗<sup>の</sup>り越<sup>こ</sup>える事<sup>こと</sup>がで<sup>き</sup>る希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>を見<sup>み</sup>つける事<sup>こと</sup>がで<sup>き</sup>ます。この希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>をもつて与<sup>あた</sup>えられた1<sup>いち</sup>日<sup>にち</sup>をあゆ<sup>あゆ</sup>んでい<sup>おも</sup>きたいと思<sup>おも</sup>います。